



血液がん 2022年12月版

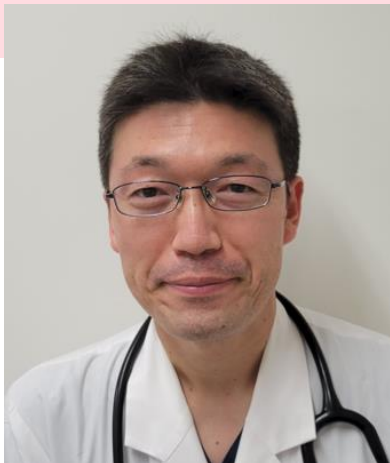
# Oncologist Fact Report

血液がん診療医の情報収集レポート  
新薬の認知・処方実態や処方に至るまでの  
カスタマージャーニー

---

株式会社メディカルトリビューン

Hematologic malignancy '22



## 都立駒込病院 血液内科 医長 名島悠峰 先生

日本は長きにわたり長寿国といわれてきましたが、高齢者人口の増加に伴い造血器腫瘍の発症率は上昇傾向にあります<sup>1)</sup>。しかし、造血器腫瘍領域における診断法・治療薬の承認状況は欧米に後れを取っており、日本の患者さんに対する至適治療の提供にはいまだ課題があると考えられます。

一方、今年（2022年）8月には日本血液学会が「造血器腫瘍における遺伝子パネル検査体制のあり方とその使用指針」を刊行するなど、新たな動きも見えてきています。今後、ゲノム医療の環境整備を通じて、遺伝子パネル検査による遺伝子異常の評価が、確定診断や至適治療の選択につながることを期待されます。また、造血器腫瘍領域では新たな分子標的薬、抗体医薬、CAR-T療法などの上市が続いていますが、患者さんの治療選択肢が増えるという利点だけでなく、副作用の早期発見と対応、精神的フォローといった点で医療従事者が緊密に連携する必要性が高まっています。

本レポートは、血液内科、腫瘍内科の先生方を対象に、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の実臨床における診療や情報収集の実態を調査しまとめたものです。チーム医療の現状も明らかにされており、とても参考になるデータでした。造血器腫瘍領域におけるチーム医療には疼痛緩和や副作用管理および就労支援に至るまでさまざまな目的がありますが、今後は若年の患者さんの妊孕性温存の取り組みに関しても鍵になると考えています。またわれわれ医師は、日常診療において患者さんの考えを定量的なデータとして確認する機会は必ずしも多くありません。本レポートの患者調査ではShared Decision Makingの重要性が示されており、今後の診療に生かしていきたいと考えています。

造血器腫瘍患者さんの生命予後は年々延びており<sup>1)</sup>、医療従事者は患者さんが治療を受けながらも自分の生活や人生を豊かに過ごせるようサポートすることが重要です。行政、医療従事者、企業が患者さんと手を携えてそうした環境を整備できるよう、本レポートが一助となれば幸いです。

1) 国立研究開発法人国立がん研究センターホームページ. がん種別統計情報

# 目次

1	本サービスご提供の背景・血液がんに関するレポートに取り組む背景	3
2	調査概要	6
	● 回答者属性	
3	エグゼクティブサマリー	16
4	調査結果詳細	
	● 第1部：血液がんの治療実態	
	– 4-1：白血病の治療薬／開発品の認知状況	21
	– 4-2：悪性リンパ腫の治療薬／開発品の認知状況	55
	– 4-3：多発性骨髄腫の治療薬／開発品の認知状況	89
	– 4-4：治療方針／チーム医療	117
	● 第2部：血液がんを診療する医師の情報収集実態	
	– 4-5：日常診療	131
	– 4-6：製薬企業のWEBサイト・MR／MSL評価	144
	– 4-7：カスタマージャーニー	162
	– 4-8：キャズム理論／製薬企業発信情報の信頼度別の考察	270
	● 第3部：血液がんの患者調査	
	– 4-9：まとめ・回答者属性	297
	– 4-10：通院・就労の状況	304
	– 4-11：薬物療法の状況	311
	– 4-12：治療に関する情報収集・アプリ	318

# 調査概要

## 医師

## 患者

### 調査 対象者条件

1. 血液内科、腫瘍内科、血液・腫瘍科、血液・腫瘍内科のいずれかに該当する病院勤務医  
※2021年12月版は100床以上
2. 直近1年間に血液がんの患者を1人以上診療  
※2020年12月版は直近3年間

1. 血液がんの薬物療法経験がある
2. 18歳代以上の男女

### 標本抽出

Medical Tribune ウェブ 医師会員／新聞会員

一般消費者パネルからのランダム抽出

### 調査手法

WEBアンケート調査

WEBアンケート調査

### サンプル数

239ss  
・2021年12月版：242s  
・2020年12月版：211s

108ss

### 調査時期

2022年10月28日～11月10日  
・2021年12月版：2021年11月初旬～中旬

2022年10月24日～11月2日

# レポート内で使用する疾患の略語一覧

分類	疾患名	略称
白血病	急性骨髄性白血病	AML
	急性リンパ芽球性白血病	ALL
	慢性骨髄性白血病	CML
	慢性リンパ性白血病	CLL
	骨髄異形成症候群	MDS
リンパ腫	ホジキンリンパ腫	HL
	濾胞性リンパ腫	FL
	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	DLBCL
	末梢性T細胞リンパ腫	PTCL
	成人T細胞白血病・リンパ腫	ATL
	皮膚T細胞性リンパ腫	CTCL
	原発性マクログロブリン血症およびリンパ形質細胞リンパ腫	WM/LPL

\* 一般社団法人日本血液学会 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018年版補訂版をベースに一部加筆

# 調査対象の薬剤一覧

※本レポートでは、2022年12月時点で発売/適応取得5年以上：既存薬、発売/適応取得5年未満：既存薬として分析した

## 白血病

製品名（一般名）	適応症	発売/適応取得年	既存薬	新薬
タシグナ（ニロチニブ）	慢性期又は移行期の慢性骨髄性白血病	2009年3月	★	
スプリセル（ダサチニブ）	慢性骨髄性白血病	2009年3月	★	
アイクルシグ（ボナチニブ）	前治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄性白血病	2016年11月	★	
ボシュリフ（ボスチニブ）	慢性骨髄性白血病	2020年6月		★
セムブリックス（アシミニブ）	前治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄性白血病	2022年5月		★
イムブルピカ（イブルチニブ）	慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）	2016年5月	★	
カルケンス（アカラブルチニブ）	再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）	2021年4月		★
ベスポンサ（イノツズマブ オゾガマイシン）	再発又は難治性のCD22陽性の急性リンパ性白血病	2018年4月		★
ビーリンサイト（プリナツモマブ）	再発又は難治性のB細胞性急性リンパ性白血病	2018年11月		★
ソスパタ（ギルテリチニブ）	再発又は難治性のFLT3遺伝子変異陽性の急性骨髄性白血病	2018年12月		★
ヴァンフリタ（キザルチニブ）	再発又は難治性のFLT3-ITD変異陽性の急性骨髄性白血病	2019年10月		★
ビダーザ（アザシチジン）	急性骨髄性白血病（ベネトクラクス併用）	2021年3月		★
ベネクレクスタ（ベネトクラクス）	急性骨髄性白血病（アザシチジン併用、少量Ara-C併用）	2021年3月		★

## 悪性リンパ腫

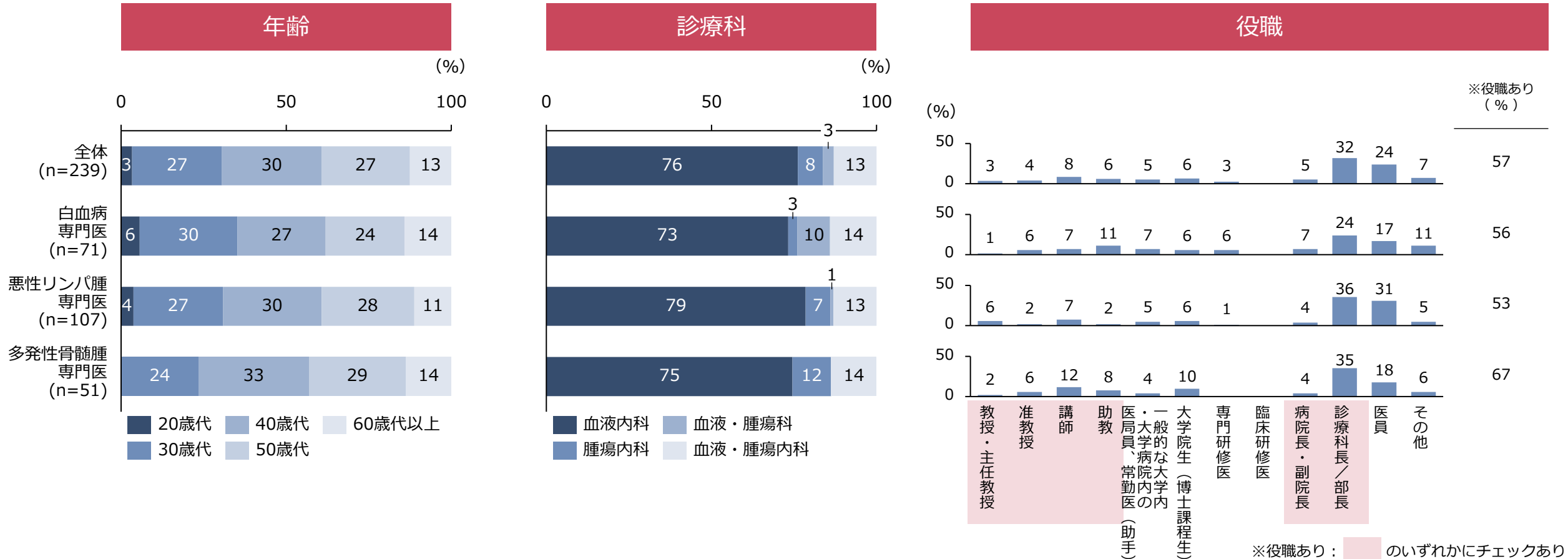
製品名（一般名）	適応症	発売/適応取得年	既存薬	新薬
アドセトリス（ブレンツキシマブ ベドチン）	CD30陽性のホジキンリンパ腫	2014年4月	★	
オブジーボ（ニボルマブ）	再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫	2016年12月	★	
キイトルーダ（ペムプロリズマブ）	再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫	2017年11月	★	
ボライビー（ボラツズマブ ベドチン）	再発又は難治性のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	2021年5月		★
ボライビー（ボラツズマブ ベドチン）	未治療のびまん性大細胞型B細胞リンパ腫	2022年8月		★
アドセトリス（ブレンツキシマブ ベドチン）	CD30陽性の末梢性T細胞リンパ腫	2019年12月		★
ハイヤスタ（ツシジノスタット）	再発又は難治性の成人T細胞白血病リンパ腫・末梢性T細胞リンパ腫	2021年10月		★
ダルピアス（ダリナバルシン）	再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫	2022年8月		★
レミトロ（デニロイキン ジフチトクス）	再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫・皮膚T細胞性リンパ腫	2021年5月		★
タズベリク（タゼメトスタット）	再発又は難治性のEZH2遺伝子変異陽性の濾胞性リンパ腫（標準的な治療が困難な場合に限る）	2021年8月		★
ガザイバ（オビヌツズマブ）	CD20陽性の濾胞性リンパ腫	2018年8月		★
ベレキシブル（チラブルチニブ）	原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫	2020年8月		★
ベルケイド（ボルテゾミブ）	原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫	2018年3月		★

## 多発性骨髄腫

製品名（一般名）	適応症	発売/適応取得年	既存薬	新薬
ベルケイド（ボルテゾミブ）	多発性骨髄腫	2006年12月	★	
カイトロリス（カルフィルゾミブ）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	2016年8月	★	
ニンラーロ（イクキサゾミブ）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	2017年5月	★	
ニンラーロ（イクキサゾミブ）	多発性骨髄腫における維持療法	2020年3月		★
レブラミド（レナリドミド）	多発性骨髄腫	2010年7月	★	
ポマリスト（ポマリドミド）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	2015年5月	★	
サークリサ（イサツキシマブ）	再発又は難治性の多発性骨髄腫	2020年8月		★
ダラキューロ（ダラツムマブ・ボルヒアルロニダーゼ アルファ）	多発性骨髄腫	2021年5月		★

### 専門別

- ✓ 年齢は30～50歳代が中心であった
- ✓ 診療科はいずれの疾患領域とも血液内科が7割超を占めた
- ✓ いずれかの役職に就いている割合は57%と半数程度を占め、特に多発性骨髄腫専門医で7割弱と最も多かった

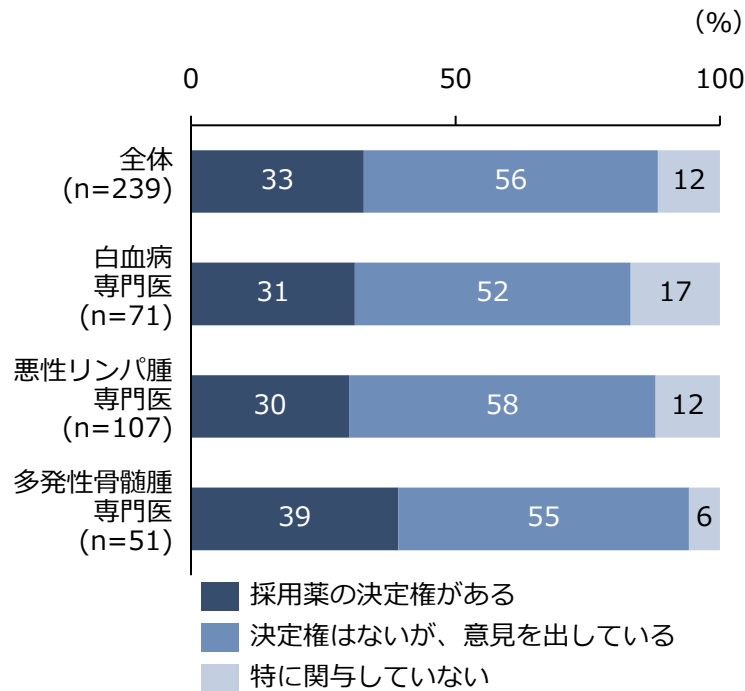


F2.先生のご年齢（世代）を教えてください。/SQ1.先生の主な診療科を教えてください。/F3.先生の主たる勤務施設での役職を教えてください。

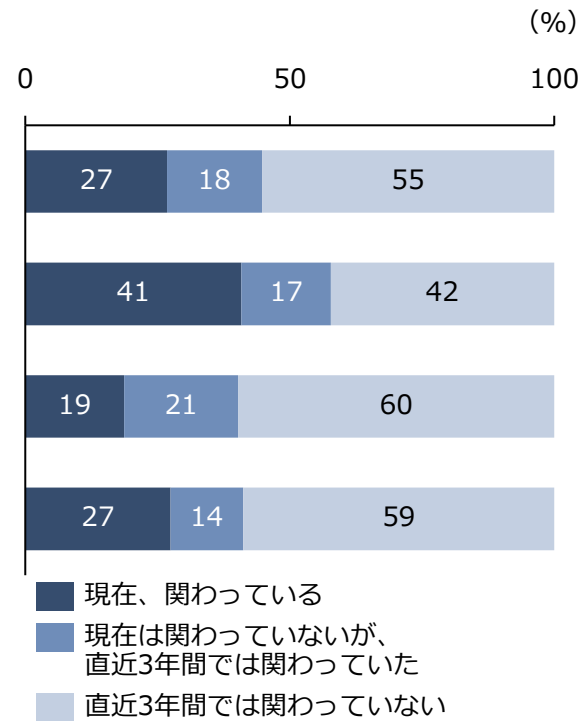
### 専門別

- ✓ 薬剤採用への決定権については、多発性骨髄腫専門医で最も多く約4割だった
- ✓ 治験に関わっている割合は、白血病専門医が最も多く約4割を占めた
- ✓ 所属または参加学会として、白血病専門医は日本造血・免疫細胞療法学会（JSHCT）、悪性リンパ腫と多発性骨髄腫の専門医は日本臨床腫瘍学会（JSMO）が多かった

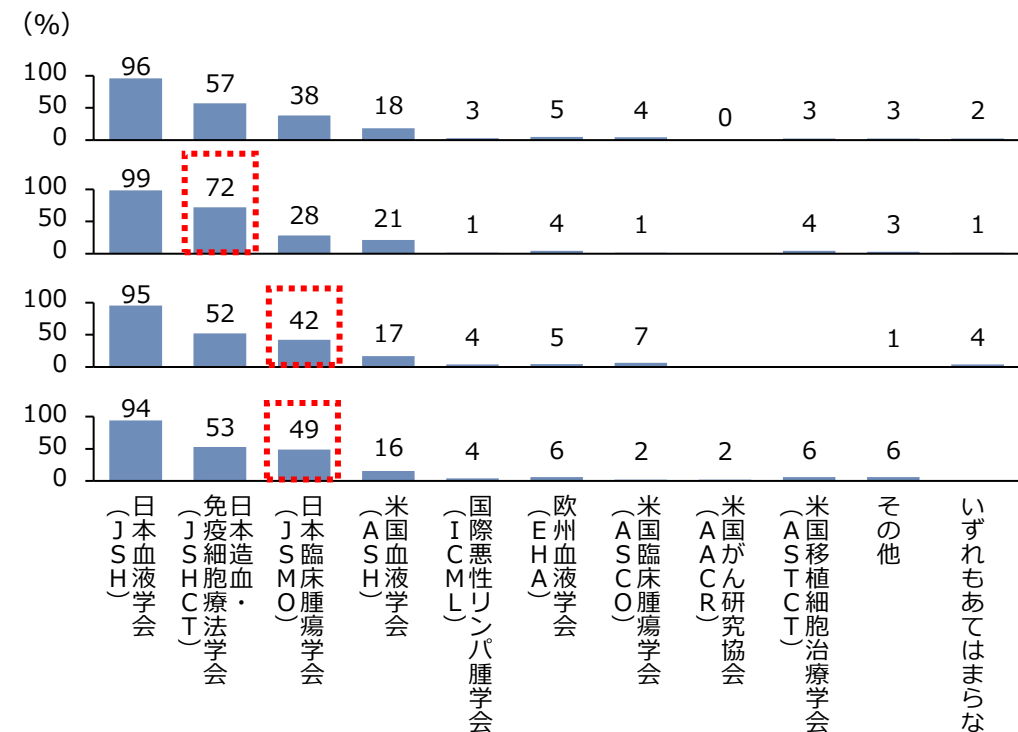
#### 採用薬への関与



#### 治験への関与



#### 所属・参加学会

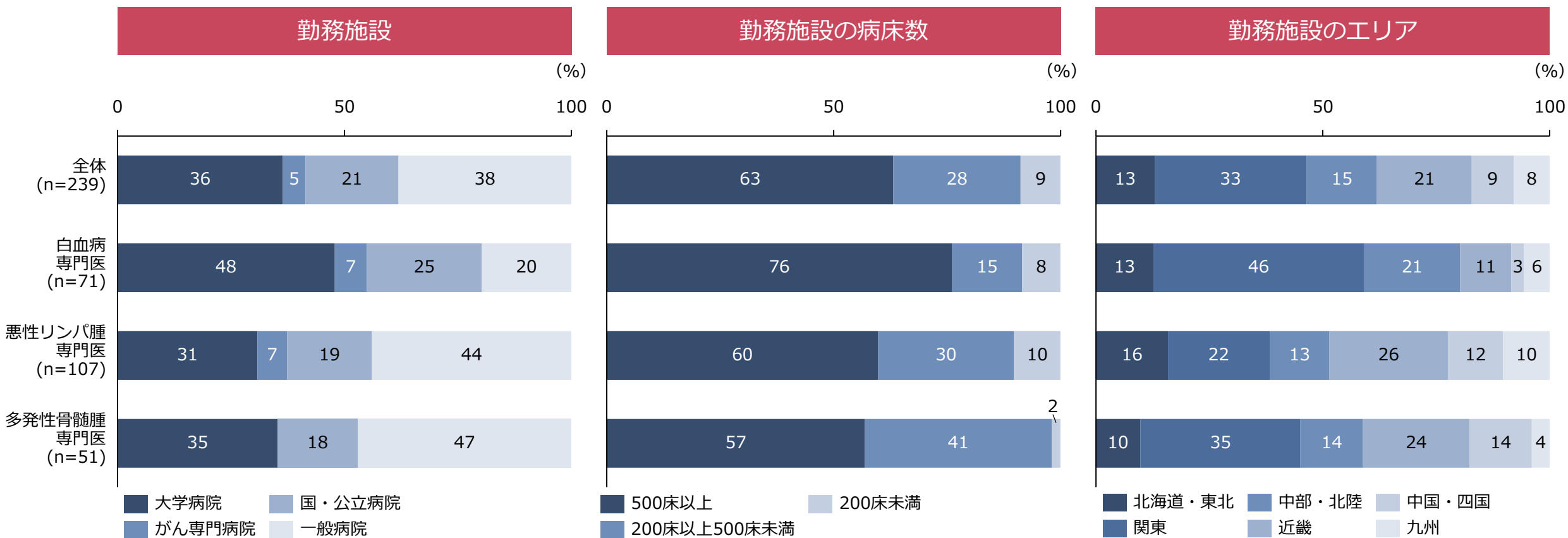


F4.先生の主な勤務施設における採用薬への関与度について、当てはまるものを選択してください。/F5.直近3年間における、血液がんの治療に関わる新薬や適応拡大などの治験への関与経験について教えてください。  
F6.先生が所属・参加される学会を全て教えてください。(MA)



### 専門別

- ✓ 勤務先施設の分布では、白血病専門医でやや傾向が異なり、大学病院の割合が5割弱であった（治験関与度も高かったため、施設分布が影響している可能性がある）
- ✓ 領域により勤務先施設のエリア分布もやや異なり、悪性リンパ腫はばらけていたのに対し、白血病と多発性骨髄腫専門医では関東の割合が多かった



SQ2.先生の主な勤務施設を教えてください。/SQ3.先生の主な勤務施設の病床数を教えてください。/F1.先生の主たる勤務施設の所在地を教えてください。

### 専門別

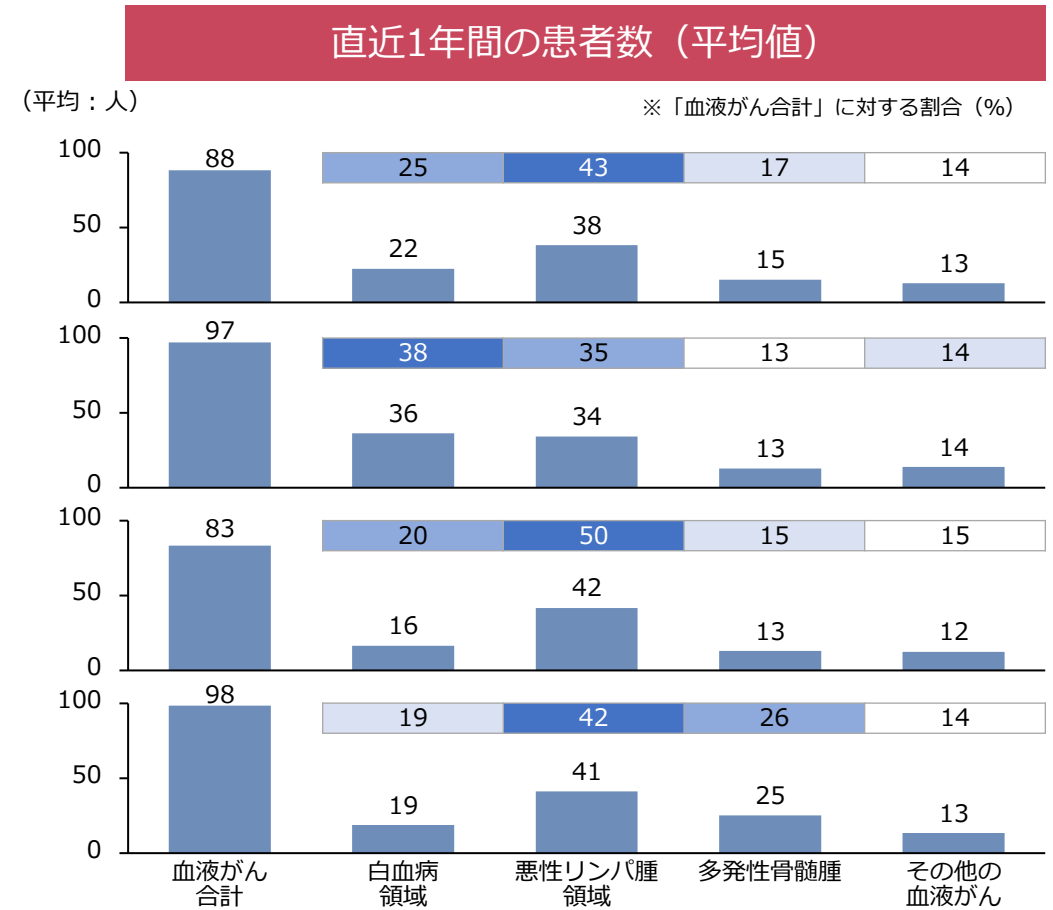
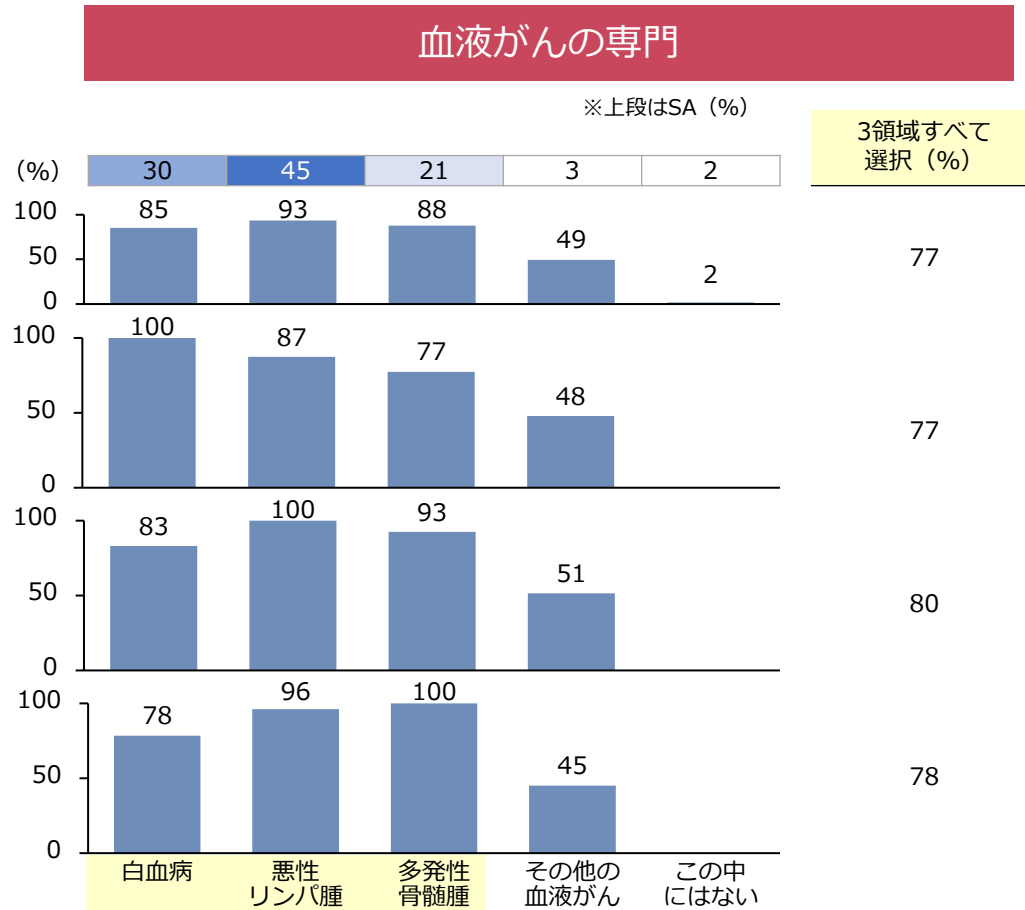
- ✓ 専門領域の分布をみると、各領域の専門医いずれも主要3領域を専門とする割合が多かった（日本の血液内科医の特徴ともいえる）
- ✓ 患者数でみると、専門領域による偏りはあるが、悪性リンパ腫患者がいずれでも多かった

全体  
(n=239)

白血病  
専門医  
(n=71)

悪性リンパ腫  
専門医  
(n=107)

多発性骨髄腫  
専門医  
(n=51)

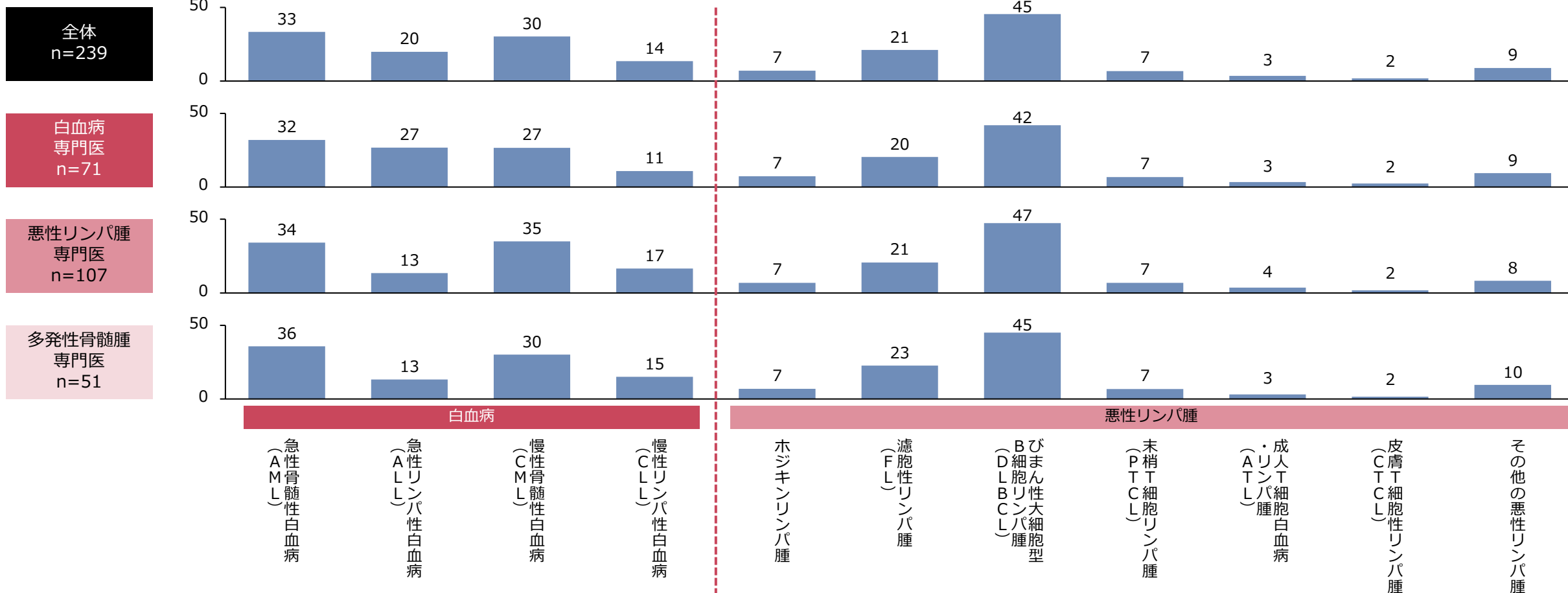


SQ4.造血管腫瘍（血液がん、以降は血液がん表記）における、先生のご専門領域を教えてください。（MA/SA）/SQ5.【直近1年以内】に先生ご自身が診療した血液がんの患者数（概数）をカルテベースで教えてください。

### 専門別

(各領域の患者数に対する割合：%)

- ✓ 白血病の患者数について、白血病専門医では他の専門医に比べALLの割合が多かった
- ✓ 悪性リンパ腫の患者数については専門領域ごとの傾向に大きな違いはみられなかった

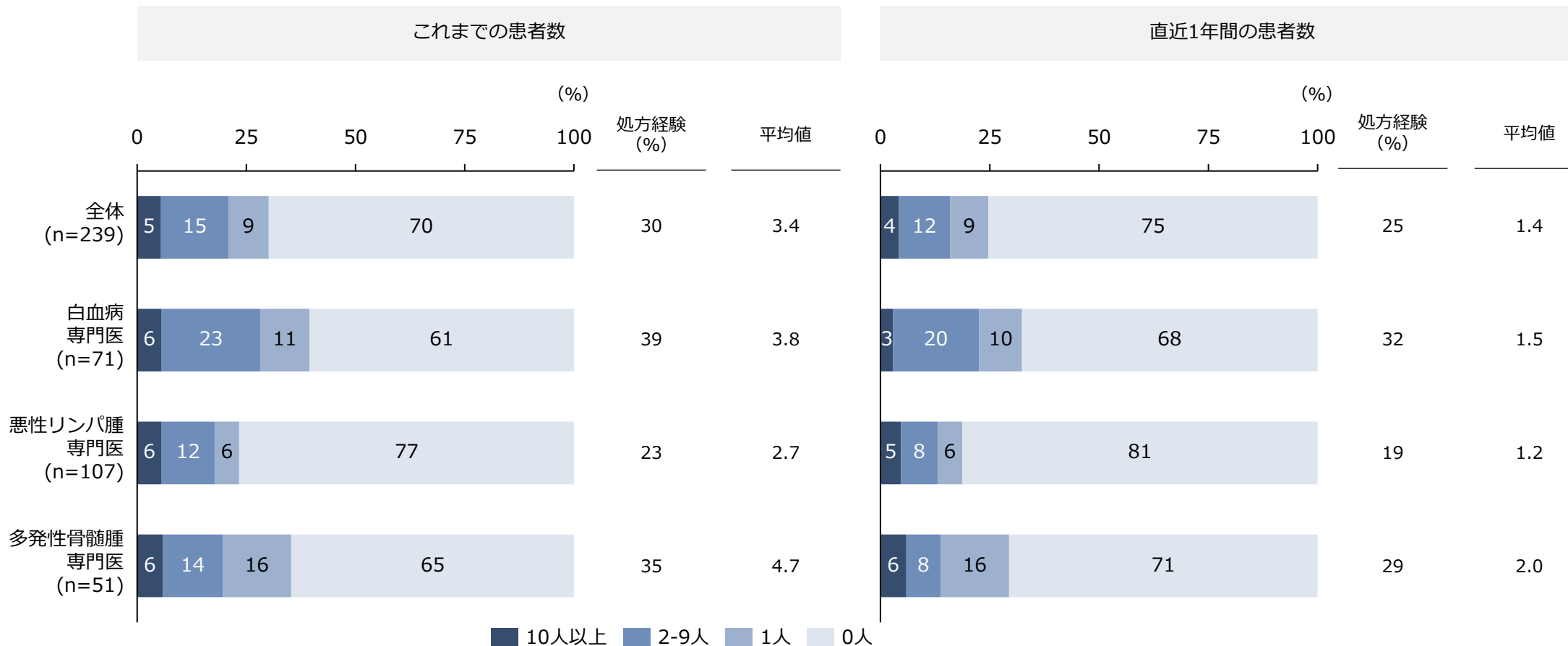


Q1. 【直近1年以内】に先生ご自身が診療した、以下の疾患の患者数をカルテベースで教えてください。

※各領域の患者がいない場合は、0人として集計

### 専門別

- ✓ CAR-T療法の処方経験率は、全体では経験医師は3割にとどまり、領域によりばらつきはあるが6~8割は未経験であった
- ✓ 専門別では、白血病専門医が最も多く40%、次いで多発性骨髄腫専門医が35%であったが、1人の医師が経験した患者数は多発性骨髄腫で多かった
- ✓ 全体では経験医師は3割にとどまり、領域によりばらつきはあるが6~8割は未経験であった



Q2.先生ご自身がCAR-T療法（治験など含め）を施行した患者数をカルテベースで教えてください。



# Oncologist Fact Report

2022年12月版



**CONFIDENTIAL**

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。